

## 「JENESYS2.0」

## 2017 年度中国高校生訪日団第 2 陣 B コース

訪問日程 平成 29 年 10 月 17 日（火）～10 月 25 日（水）

**1 プログラム概要**

中国教育部が派遣した 2017 年度中国高校生訪日団第 2 陣 B コース計 149 名が、10 月 17 日から 10 月 25 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。（副団長：曹国平（ソウ・コクヘイ）江蘇省教育庁 機関サービスセンター 主任）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京都を始め、岡山県、兵庫県、大阪府、滋賀県、福井県、福岡県、茨城県を訪問し、「クールジャパン」を含め、様々な分野における日本の魅力、強みを体感したほか、高校の訪問・交流を通じて、同世代の青少年同士の友好交流と相互理解を深めました。

**2 日程****10 月 17 日（火）**

- 第 1・2 分団：成田空港より入国
- 第 3・4 分団：羽田空港より入国、皇居見学
- 第 5 分団：羽田空港より入国

**10 月 18 日（水）**

- 共通：オリエンテーション
- 共通：企業とイノベーションに関する講義、浅草寺・仲見世通り見学、歓迎会

**10 月 19 日（木）**

- 第 1・2 分団：岡山県へ移動、倉敷美観地区見学
- 第 3 分団：滋賀県へ移動、ヤンマーミュージアム視察、黒壁スクエア見学
- 第 4 分団：福岡県へ移動、ふくや工場 ハクハク視察
- 第 5 分団：福岡県へ移動、ムーンスター工場視察

**10 月 20 日（金）**

- 第 1 分団：学校交流（岡山県立瀬戸高等学校）
- 第 2 分団：学校交流（金光学園中学・高等学校）
- 第 3 分団：学校交流（滋賀県立国際情報高等学校）
- 第 4 分団：学校交流（福岡県立明善高等学校）
- 第 5 分団：学校交流（福岡県立ありあけ新世高等学校/福岡県立八女農業高等学校）

**10 月 21 日（土）**

- 第 1・2 分団：民泊体験（瀬戸内市/牛窓研修センターカリヨンハウス）
- 第 3 分団：民泊体験（東近江市/愛のまち農泊推進協議会）
- 第 4 分団：太宰府天満宮、九州国立博物館、うきは市見学、民泊体験（うきは市/うきは市役所ブランド推進課）
- 第 5 分団：二見ヶ浦、またいちの塩工房、太宰府天満宮見学、日本文化体験（梅が枝餅焼き体験）、ホームステイ体験（福岡市/ヒッポファミリークラブ西日本）

**10 月 22 日（日）**

- 第 1・2 分団：兵庫県へ移動、カワサキワールド、神戸海洋博物館視察
- 第 3 分団：福井県へ移動、座禅体験（大門山永平寺）
- 第 4 分団：茨城県へ移動
- 第 5 分団：茨城県へ移動

## 10月23日（月）

第1分団：学校交流（大阪府立桜塚高等学校）、ワークショップ

第2分団：カップヌードルミュージアム大阪池田視察、学校交流（大阪府立三島高等学校）、ワークショップ

第3分団：学校交流（福井県立足羽高等学校）、ワークショップ

第4分団：学校交流（茨城県立水戸商業高等学校）、ワークショップ

第5分団：商業施設視察（つくば市）、牛久大仏見学、ワークショップ

## 10月24日（火）

第1・2・3分団：東京都へ移動

第4分団：茨城県参観（偕楽園）、東京都へ移動

第5分団：明治なるほどファクトリー守谷、東京都へ移動、東京タワー見学

共通：歓送報告会

第1・2・3・4分団：商業施設視察（横浜・秋葉原）

## 10月25日（水）

第1・2分団：羽田空港より帰国

第3・4分団：都内参観（原宿・明治神宮見学）、羽田空港より帰国

第5分団：都内参観（原宿・明治神宮見学）、成田空港より帰国

## 3 写真

### <共通>



10月18日 企業とイノベーションに関する講義  
（東京都）



10月18日 企業とイノベーションに関する講義  
（東京都）



10月18日 浅草寺・仲見世通り見学(東京都)



10月18日 歓迎会 中国教育部基礎教育司  
副司長 馬嘉賓団長挨拶 (東京都)



10月18日 歓迎会 東京都立田柄高等学校  
吹奏楽部と交流(東京都)



10月18日 歓迎会 中国高校生パフォーマンス  
(東京都)

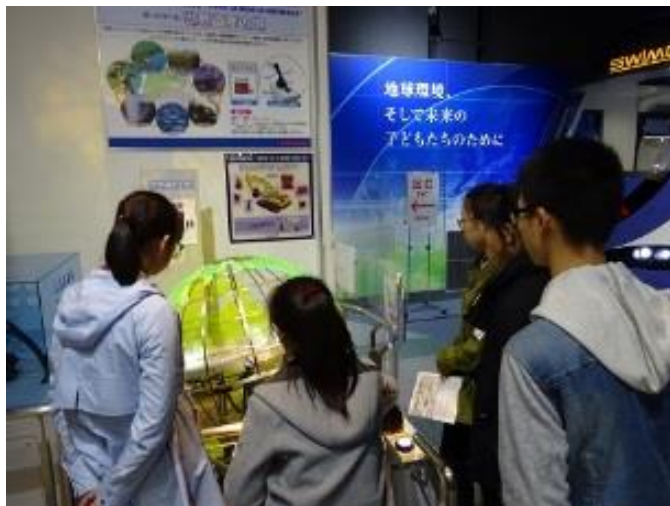


10月24日 歓送報告会 訪日成果報告(東京都)

<第1・2分団>



10月19日 倉敷美観地区見学(岡山県)



10月22日 カワサキワールド視察(兵庫県)

<第1分団>



10月20日 岡山県立瀬戸高等学校訪問・交流(岡山県)



10月23日 大阪府立桜塚高等学校訪問・交流(大阪府)

<第2分団>



10月20日 金光学園中学・高等学校訪問・交流  
(岡山県)



10月23日 カップヌードルミュージアム大阪池田  
視察(大阪府)



10月23日 大阪府立三島高等学校訪問・交流(大阪府)

<第3分団>



10月19日 ヤンマーミュージアム視察(滋賀県)



10月20日 滋賀県立国際情報高等学校訪問・交流(滋賀県)



10月22日 座禅体験(大本山永平寺)(福井県)



10月23日 福井県立足羽高等学校訪問・交流(福井県)

<第4分団>



10月19日 ふくや工場 ハクハク視察(福岡県)



10月20日 福岡県立明善高等学校訪問・交流(福岡県)



10月21日 太宰府天満宮見学(福岡県)



10月21日 九州国立博物館見学(福岡県)



10月23日 茨城県立水戸商業高等学校訪問・交流(茨城県)



10月24日 偕楽園・常磐神社見学(茨城県)

＜第5分団＞



10月19日 ムーンスター工場視察（福岡県）



10月20日 福岡県立ありあけ新世高等学校訪問・交流（福岡県）



10月20日 福岡県立八女農業高等学校訪問・交流（福岡県）



10月21日 二見ヶ浦、またいちの塩工房見学（福岡県）



10月21日 梅が枝餅焼き体験（福岡県）



10月24日 明治なるほどファクトリー守谷視察（茨城県）

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○今回の訪問では、沢山の楽しい思い出が残った。倉澤先生の「企業とイノベーション」についての講義を受け、多くのことを学んだ。イノベーションは民族の文化と緊密につながっているという事を理解することができた。岡山県の倉敷美観地区を見学し、日本の伝統的な芸術、文化を学んだ。今回の訪日で、最も印象深いことはホームステイ体験だった。日本人の優しさを感じ、日本人の一般家庭を体験した。帰国してからは、イノベーションは民族の魂、国家発展の牽引力であることを皆さんに伝えたい。自分に適したイノベーション精神と能力を育成し、国の発展に貢献していきたいと思う。

○今回の訪日で最も印象深かったのはホームステイ体験だ。日本のホストファミリーの方は非常に親切で、地元の日本文化を体験させてくれた。ホストファミリーのおじいさんは連絡先を渡すときに、今度日本に来たら是非連絡してほしいと何度も言ってくれた。ホームステイ体験を通して、日本についてより深く理解できた。帰国してから、周りの人々に以下のことを是非伝えたいと思う。日本はとてもきれいな国で、人々は環境を大切に守り、特にゴミの分類をきちんとしている。また、最も興味深いことは、日本は空間を上手に利用していることだ。これらの理念をぜひ中国に持ち帰りたいと思う。イノベーションについては、倉澤先生の講義を受け、大変勉強になった。日本のイノベーションへの理念を中国に持ち帰り、自国の建設に寄与できればと思う。学校交流を通じて、優しい日本の高校生と知り合った。日本の高校生は、独立精神が強く、毎日1時間以上自転車に乗って通学する人もいる。私達もこの独立精神を見習うべきだ。ホストファミリーとの交流を通して、日本の一般家庭の様子をよく理解する事ができた。日本人が非常に優しく接してくれたことに感動を覚えている。純朴な日本人と親しく過ごせたことを大変ありがたく思う。

○岡山県立瀬戸高校を訪問し、日本の生徒と一緒に音楽の授業を受け、合唱を練習した。私達が楽譜を理解できないかと心配して、日本の生徒はマーカーペンで楽譜に丁寧に印をつけてくれていた。言葉のギャップを超えて一緒に楽しく歌を歌った。日本の生徒の心温かいもてなしで、私たちはすぐにクラスの雰囲気になじむことができた。今回の訪問を通じて、私は日本の街の様子や日本の風俗文化を理解し、日本の高校や日本人の家庭を体験した。帰国後、この感想を周囲の人々に伝えたいと思う。

- 1、日本の街は整然としており、建物はユニークで特徴がある。
- 2、日本のイノベーション精神は、製造、プロセス、販売、組織などの四つの分野に表れている。長く存続できる企業は強いイノベーション能力を有している。
- 3、日本人は使い勝手のいい設計で上手に空間を利用している。
- 4、日本の学校は全人教育を重視し、学校のカリキュラムは普通教科の勉強以外に、芸術や体育の授業も多く取り込まれ、部活動も豊富で、生徒の心と体の健全な成長を大切に考えている。
- 5、日本はとても友好的な国だ。ホームステイ体験や学校交流では、日本人に親切に接してもらい、楽しく過ごすことができた。

#### ○印象深かったこと

1) ホストファミリーと過ごした1泊2日の時間。言葉の壁はあったが、翻訳アプリを使って交流することができた。日本のお母さんは、中学時代に中国へ行ったことがあるとのことで、その時

の中国人との交流が忘れがたい思い出だと教えてくれた。今回、ホストファミリーが私を受け入れてくれたのも、そのことが背景にあったのではないかと思った。日本の妹は、最初はとても恥ずかしがっていたが、お父さんに促されて翻訳ソフトを使い、私たちにいくつか簡単な質問をした。日本のお父さんは、何の壁も作らず私たちに接してくれて、雨の中、車で私たちを文化的遺跡がある場所などに案内し、さらにいろいろと説明までしてくれた。日本のお母さんとは、あまり話しをする時間はなかったが、私たちのためにご飯を作ったり、お風呂を準備したりしてくれた。ホストファミリーの家族には、心から感謝している。

２）学校交流では、日本の高校生も私と同じような趣味を持ち、同じような悩みを抱えていることに気付いた。日本の高校生とのおしゃべりはとても楽しかった。特に、部活動見学では、楽器を演奏したり、ダンスを披露してくれたり、とても魅力的で、印象深かった。

・帰国後に伝えたいこと

- １）日本は高度経済成長を遂げ、科学技術が進んでいる国であるということ
- ２）日本人は素朴で、もてなしに長けていること
- ３）日本人のマナーがいいこと

○中国の高校生を代表して、今回訪日することができ、大変嬉しく思っている。訪日では、多くの収穫を得ることができた。まず、日本は環境保全を重視しており、日常の中でもそれが実践されていた。街を歩いて気付いたのは、ゴミ箱が少ないことだ。それにもかかわらず道にゴミが落ちておらず、とてもきれいだった。また、ゴミの分類もしっかりとされていた。これは、日本政府が環境保全を重視していることの表れであると同時に、日本人の素養が高いことも関係していると思う。次に、教育についても独自の考え方を持っていると思った。文化面を含めた基礎教育は整備され、さらに技能や芸術といった教育も重視していた。日本の高校には部活動がたくさんあり、部活動ができる時間もきちんと設けられていた。生徒たちは自分の好きな部活動で技を磨いていた。また素養の高さも感じた。これは、小さいころから自分のためだけでなく人のために行動するといったマナーの教育などをしっかりと受けていることと関係していると思う。その他、日本人はイノベーション意識が高いと感じた。企業は、モデルチェンジを繰り返して成長し続けている。カワサキワールドとカップヌードルミュージアムを見学し、競争が求められる中で、イノベーションこそが企業が生き残る道であり、イノベーションには日常生活の中での観察や発見が重要であるということを感じることができた。その一例が、ゴミの分別である。ゴミを細かく分類することが、イノベーション意識にもつながっていると感じた。帰国後、周りの家族や友人たちに、日本で見聞したことを伝え、より多くの若者が臨機応変に行動し、理論を実践に変え、多くの技能を身に付け、日本の文化を味わえるように、機会があったら日本へ行き、自ら体感するよう勧めたい。また、クラスメートに日本の魅力を伝え、中日高校生の友好、相互理解が深まるようにしたい。

○日本はセレモニーを大切にしており、どの活動に参加しても、歓迎会と歓送会が開かれ、形式が重視されていると感じた。これは、私たちの江蘇省が提唱している「八礼四儀」と相通じるものがあるとも思った。また、日本の学校では部活動を重視していた。部活動を通じて、生徒たちのコミュニケーション能力やチームワーク力、芸術的素養を高めることが出来ると感じた。部活動を通じて、日本の高校生の素養が向上し、イノベーションを生み出すモチベーションが上がっていくのだと思う。そして街の整備が進んでいることを感じた。国土面積が狭いことが関係しているかもしれ

ないが、日本は資源を合理的に使うようにルールが決められ、資源の無駄をなくしているのではないかと感じた。都市の施設は密集して建てられているが、秩序もある。資源も最大限に再利用している。食品衛生面では意識が高いと感じた。スーパーで販売されている生鮮食品は全てパッケージされていて、無駄を排除し食品の品質を確保していた。割り箸を使うところが多かったが、これも衛生的である。帰国後、SNSや口頭で、日本で見聞した新しい発見を友人たちに発信していきたい。中日両国の国際交流がさらに深まること、貿易上でもウィンウィンの関係が保たれ、様々な文化技術交流がこれからも継続されることを願う。

○日本を訪れてから、私の日本に対する理解がさらに深まった。その中でも、日本文化の保護や継承が特に印象深い。都市部や会社の敷地内には時々神社仏閣を見かけたが、これらの神社仏閣は保存状態が良く、修理整備済みか新たに建てられたものかと思うほどで、経済の発展の中で用地が必要だからと破壊することはないのだ。日本の伝統の継承は各家庭にまで深く浸透しており、多くの家庭には畳・日本の文字の書かれた提灯・障子・襖などの伝統的な内装がほどこされている。また、日本舞踊・正座・茶道・華道・剣道などの多くの伝統が現在まで保たれている。これらの日本の特色ある伝統文化は、外国人に日本的風情を感じさせるものとなっている。帰国後、清潔な街・日本の伝統文化・日本人の環境保護意識・良好な自動車運転の習慣・真面目な仕事態度などについて、周囲の人々に訪日の感想を伝え、皆に日本の普通の人々の生活の様子を知らせたい。このほか、周囲に対し中日両国の協力の程度を知らせ、中日友好を提唱し、皆の日本に対しての興味を喚起したい。最後に中日友好が長く続くよう祈っている。

○今回の訪日プログラムでは、日本のイノベーションの方面が最も印象深かった。例えばヤンマーミュージアムでは、ヤンマーがもともと発動機を改造する会社であったが、後に農機を製造し環境保護をうたう会社に変貌し、その志を表し人々の教育に役立つよう、ヤンマーミュージアムという環境保護イノベーション型の博物館を開館したと知った。このミュージアムでは太陽光パネルを軒に設置し、外観の美しさを損なわず館内の基本電力を賄っている。また屋上が緑化され、ヒートアイランド現象の緩和に役立っている。さらに発動機の廃熱を利用して、足湯まで設けられている。このようなイノベーションや融合は見習うべきであり、周囲の人々に対してイノベーションを提案してゆく必要があると思った。

○最も印象深かったことは倉澤治雄先生の講義である。このような急速に発展する時代において、全てを古い制度によって行っていたら、大きな波に流され砂浜に打ち上げられてしまう。岸辺では、時代の流れをとらえられる人材を待望し、さらに遠いところに向かうべく前進しようとしているのだ。よってイノベーションとは、私たち新時代の高校生が持つべき重要な資質である。確かに学習はせねばならない。しかし学習とはただの二つの漢字というだけでなく、その意味するところは無尽蔵なのだ。本の中の昔の人の思想から人文を理解し、実際に様々なところに赴きその土地の文化や自然の景観を感じるのも、別の形で魂の交流であると言える。イノベーションとは、実践から出発せねばならないものなのだ。テスラ、Space Xなどの巨大企業の創業者であるスティーブ・ジョブズ、マーク・エリオット、イーロン・マスクなどの世界を変えることに成功した人々は、世界全体を震撼させた。こうした人々が人類社会発展の軌道を変え、人々に利便性をもたらしているのだ。イノベーションにおいて、最も重要なのは広い視野と正確な予知力を持つことだ。時間とは過

ぎ行くものであり、世界は前へ前へと動いている。その規則性を見据え、機先を制し、細かいところから機会を見出さねばならない。順調な時は現状に安住せず、いざ開拓にかかわるときは勇者とならねばならない。なぜいつも足りないものを嘆いて閉じこもっているのか。なぜ盾と剣を持って茨の道を切り開こうとしないのか。日本は非常に発達した国家であり、人々は大変友好的で、仕事に誇りを持ち、礼儀正しいこということを、帰国したら伝えてゆきたい。

○今回の高校生訪日団のプログラムのうち、最も印象深かったのはホームステイ体験だ。これは生活の中の重要な実践体験であり、人生というキャンバスに重要な一筆を描くこととなった。またこれは私たちに日本の特色ある普通の民主的な生活を体験させるものであり、おでんなどの伝統的な食事は、非常に心惹かれるものであった。ホームステイ先の家族は親切でもてなし上手であり、十二分に力を発揮して私をもてなしてくれた。私たちは家で日本独特の遊びなどを体験し、文化のふれあいを経験した。そのような経験を経て比較すると、中日両国間でお互いの長所を伸ばし短所を補い合えば、融和を進めることができるのではないかと思った。帰国後、私はテーマ学級会において、日本の進んだ文化とイノベーション能力について、広く宣伝したい。日本の最大の長所は、国内外の文化を取り込んで融合させ、最終的には良いものを残し足りないものを補っていることで、私たちはそのような精神を学ぶ必要がある。イノベーション能力についてはアジアの大学ランキングからも見るができる。一般の大学ランキングではベスト 10 に中国の多くの大学がランクインしているが、イノベーション能力に限ったランキングでは、中国の大学は一つも上位にランクインしていない。またヤンマーミュージアムでは、できる限りエネルギーを循環させ合理的に利用し、廃熱が失われるのを防いでいるのを見学した。廃熱の散失は環境を破壊しやすく、日本の毎年の資源に必要な金額も増大させかねないものだ。また日本の食事マナーは、多くの人それが「形式化」であり、面倒であると認識している。しかしこれらは食事の際の利益を利益たらしめるための一つの方法ではないだろうか？倉澤治雄先生の講義では私たちにイノベーションのいくつかの大きな目標を示し、「制度のイノベーション—世界の製品を変えるもの プロセスのイノベーション—世界の販売方法を変えるもの 販売イノベーション—新たな市場を開拓すること 組織のイノベーション—新たな組織・新たな方法・新たな人員配置」と話された。しかし私は、つまるところ、新たな人材の育成が急務であり、これを成し遂げて初めて、立ち止まることなく時代に追いつき、国家を永遠に繁栄させることができるのだと思った。

○日本人の教養レベルは高く、人への接し方も礼儀正しく、いつも笑顔を絶やさず、謙虚である。街は清潔で整備されていて、ゴミをほとんど見かけない。車のクラクションも滅多に聞こえず、緑も多く街は綺麗である。私たちは茶道や華道、博物館などで文化に触れ、日本文化の多様性と包容性を理解した。優れた文化を学び、改善し更に吸収することを、日本はとても得意としている。中国伝統文化の良さを真似て、日本民族の要素も取り入れ、独特の日本文化を形成している。工場を見学したが、作業員たちの仕事ぶりは真面目で、疎かなところがなく、これは中国の「職人精神」とよく似ている。日本人から学べることは沢山あると思うので、私たち中日両国国民が末永く仲良くして、互いに学び合い、助け合い、「一衣帯水」の友好隣国になるよう望んでいる。

○もっとも印象深いことは、ホームステイ体験である。私たちは小さな田舎町を見学した。小さい町だが、周りの環境の素晴らしさに、本当に感嘆した。周りを眺めると、山水は繋がり山の上の木々

は高く、人間の手入れによって整えられている。川には水利関係の工事も見られた。日本は環境保護に気を配っていると前から聞いていたが、目に触れた景色は本当に私を感動させた。帰国後、環境保護の宣伝に力を入れ、行動したい。我が国のあちこちにも、このような桃源郷ができるよう、働きたいと思う。

○最も印象深かったことは、福岡県に滞在していた時、ある夜スーパーから出ると、老女が道端に座り込んでいるのを見かけた。ホームレスなのか、それとも何らかの事情があるのだろうか。傍らに男性警察官が座り、また別の女性警察官が腰を屈めて小声でその老女に何か話しかけており、私は大いに心を動かされた。伝えたい情報は、以下のとおりである。日本は中国と同様、豊かな伝統文化を持つ国であり、またそれを茶道や華道のように、きちんと伝承していること。伝統和食や洋食、和服と洋服のように、東西の文化が融合されていること。工場運営制度が整い、工業化、自動化が普及していること。社会や交通面でのインフラが完備されていること。

○一番印象深かったのは、ホームステイである。ホストファミリーは、とても温かく私たちを迎えてくれ、打ち解けることができた。帰国後は、周りの人々に、私が日本で食事をした時に感じたこと、日本の高校を訪問した後の交流の効果、日本の名所を見学した後に考えたことを伝えたいと思う。中国人と日本人の考え方の違いを明らかにし、両国の国情の違いを伝え、日本の特色と中国の伝統文化を比較し、両国が末永い発展のために協議してきた外交理念などを伝えたいと思う。

○最も印象に残っているのは、糸島市で一人の現地のお年寄りがボランティアとして私たちにガイドをしてくれたことだ。自身で説明のための資料を準備し、根気よく丁寧に説明してくれた。この70歳のお年寄りは、中国語で一生懸命に十七条憲法を朗読し、金印の話をしてくれた。伝えたい事は、このお年寄りの真面目さ、真摯さと、中国文化への情熱を感じたこと、漢字や中国語がますます多くの国の人々に愛されるようになってきていて、一種の文化として伝わっているということだ。そして私たちも、中日発展の民間大使として、文化交流や学習の責任を担い、両国の友好発展のために貢献していきたい。

○日本の高校を訪問し、日本の高校生と一緒にパン作りをし、一緒に昼食を食べ、共通の趣味の話で交流し、学校紹介ビデオから盛況な運動会の様子を知った。帰国したら、周りのクラスメートたちに、この数日間に見聞きした事を話し、中日の文化の相違点と共通点について話し合い、彼らの日本文化に対する理解度を高め、国情や、習慣、食の違いの体験を共有し、文化の起源や、漢字文化、仏教の相似点を追求し、共通点を求めて違いを残し、視野を広げたいと思う。